

令和2年度 むつみ家ももの木保育園 保育所自己評価

□評価日：令和3年1月31日

□対象者：常勤保育士4名

□評価項目：新規開設園として、保育所保育指針をもとに基本的と思われる内容について項目を設定し、評価を実施。

□評価基準： A…確実にできている B…ほぼできている

C…あまりできていない D…ほとんどできていない

□方法：年度内半期ごとに保育士(常勤)が自己評価項目に基づいて各自自己評価を実施。その結果を踏まえて職員会議等で評価内容を検討、整理を行い課題を共有して以降の保育実践に活かす。下半期の自己評価をもって当該年度の保育所自己評価とする。

※上段：上半期、下段：下半期(通年)

【園の基本姿勢について】	A	B	C	D
1. 園の保育理念、保育目標を理解している。	1	3		
	1	2	1	
2. 保育理念及び目標と保育所保育指針の関係を理解し、全体的な計画に基づいて指導計画を立てている。		4		
		2	2	
3. 子どもの人権に十分配慮するとともに、子ども一人一人の人格を尊重して保育を行っている。		4		
		3	1	
4. 入所する子ども等の個人情報適切に取り扱うとともに、保護者の苦情などに対し、その解決を図るよう努めている。		4		
		4		

(評 価)

1, 2, 3で上半期よりも評価が幾分下がっている。年度途中で園児が増加し、個々が成長する中で、保育理念や全体的な計画等から導かれる保育と実際の保育実践との間で試行錯誤している結果とも読み取れる。基本姿勢をしっかりと身に付けた上で、より良い保育実践につながるよう努めたい。

【保育所保育指針】

※上段：上半期、下段：下半期(通年)

第1章 総則	A	B	C	D
5. 一人一人の子どもの状況や家庭及び地域社会での生活の実態を把握するとともに、子どもが安心感と信頼感をもって活動できるよう、子どもの主体としての思いや願いを受け止めるよう留意している。		3	1	
		4		
6. 子どもの生活のリズムを大切に、健康、安全で情緒の安定した生活ができるよう環境や、自己を十分に発揮できる環境を整えている。		1	3	
		3	1	

7. 子どもの発達について理解し、一人一人の発達過程に応じ、子どもの個人差に十分配慮しながら保育をしている。		3	1	
	1	2	1	
8. 子どもが自発的・意欲的に関われるような環境を構成し、子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切に、乳幼児期にふさわしい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的な保育をしている。		1	3	
		1	3	
9.一人一人の保護者の状況やその意向を理解、受容し、それぞれの親子関係や家庭生活等に配慮しながら、様々な機会をとらえ、適切に援助を行っている。		2	2	
		2	2	
10.保育における養護とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりであり、保育所における保育は、保育及び教育を一体的に行うことがその特性であることを知っている。	1	3		
		4		
11.子どもの主体的な活動を促すためには、保育士等が多様な関わりを持つことが重要であることを踏まえ、子どもの情緒の安定や発達に必要な豊かな体験が得られるよう援助している。		2	2	
		2	2	
12.保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。		1	3	
		1	3	

(評 価)

上半期の評価と概ね変わらないが、6の評価が上がっている。小規模保育園の強みである個々の子どもの個性や成長、保護者に寄り添う保育を実践する上で重要な要素である。一方、8、12の評価が改善しなかった。次年度においては、8について、保育実践の新しい知識やバリエーションを増やし、子どもたちの主体的な活動や相互の関わりを通して成長が促されるよう情報収集や勉強会、外部研修会等への参加を積極的に行いたい。12についても、保育計画の実践を通して行われる自己評価を職員会議等で情報共有し、同僚から意見を求めるなどして保育実践の改善や質の向上につながるよう仕組みを整えたい。

※上段：上半期、下段：下半期(通年)

第2章 保育の内容

	A	B	C	D
13.基本的事項としての乳児期の発達について知っている。		3	1	
		3	1	
14.乳児は疾病への抵抗力が弱く、心身の機能の未熟さに伴う疾病の発生が多いことから、一人一人の発育及び発達状況や健康状態についての適切な判断に基づく保健的な対応を行っている。		2	2	
		3	1	
15.乳児保育では一人一人の子どもの成育歴の違いに留意しつつ、欲求を適切に満たし、特定の保育士が応答的に関わるように努めている。		3	1	
		4		
16.基本的事項としての1歳以上3歳未満児の発達について知っている。		3	1	
	1	2	1	
17.1歳以上3歳未満児の保育では、探索活動が十分にできるように、事故防止に努めながら活動しやすい環境を整え、全身を使う遊びなど様々な遊びを取り入れている。			4	
		1	3	

18.1歳以上3歳未満児の保育では、自我が形成され、子どもが自分の感情や気持ちに気づくようになる重要な時期であることから、情緒の安定を図りながら、子どもの自発的な活動を尊重し、促している。	4		
	3	1	
19.子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえるをともに、一人一人の子どもの気持ちを受け止め、援助している。	3	1	
	4		
20.子どもが自ら周囲に働きかけ、試行錯誤しつつ自分の力で行う活動を見守りながら、適切に援助している。	3	1	
	3	1	

(評 価)

14,15,19について、上半期よりも評価が上がっている。小規模保育園の強みを生かし、子どもたち一人ひとりへのきめ細やかな対応が心掛けられている。一方、17の評価が改善しなかった。前部門での評価にもつながるが、「遊び」を通した保育実践の新しい知識やバリエーションがまだまだ十分ではないようである。次年度においては、情報収集や勉強会、外部研修会等への参加を積極的に行い、重要な課題の一つとして取り組みたい。

※上段：上半期、下段：下半期(通年)

第3章 健康及び安全

	A	B	C	D
21.子どもの心身の状態に応じて保育するために、子どもの健康状態並びに発達及び発達状態について、定期的・継続的に、また、必要に応じて随時、把握している。		3	1	
	1	3		
22.保育所における食育は、健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向けその基礎を培うことを目標とし、子どもが生活と遊びの中で意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみ合う子どもに成長していくことを期待するものであることを知っ		4		
		4		
23.子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や食の循環・環境への意識、調理する人への感謝の気持ちが育つように、子どもと調理員等の関わりや、調理室など食に関わる保育環境に配慮してい	1	3		
		4		
24.事故防止の取り組みを行う際には、特に、睡眠中、プール活動・水遊び中、食事中等の場面では重大事故が発生しやすいことを踏まえ、子どもの主体的な活動を大切にしつつ、施設内外の環境の配慮や指導の工夫を行うなど、必要な対策を講じている。		2	2	
		2	2	
25. 保育中の事故の発生に備え、施設内外の危険箇所の点検や訓練を実施するとともに、外部からの不審者等の侵入防止のための措置や訓練など不測の事態に備えて必要な対応を行っている。	1	2	1	
		1	3	

(評 価)

24、25の評価が低い傾向にあり、特に25の評価は上半期より下がっている。昨年11月、保育中に肘内障より受診をするというケースが発生し、事故検証では偶発的な要素が大きく予防は難しかったと判断したが、評価に反映されている可能性がある。安全点検や避難訓練を含め各種訓練は実施しているが、より保育実践に直結するような内容となるよう工夫し、また、ヒヤリハッと報告書等を活用することで一層事故の防止に努めたい。

※上段：上半期、下段：下半期(通年)

第4章 子育て支援

	A	B	C	D
26. 保護者の状況に配慮した個別の支援がとられている。	1	1	1	1
		2	2	
27. 不適切な養育等が疑われる家庭への支援が確立されている。		2	1	1
		1	3	

(評 価)

評価自体は低い傾向にあるが、上半期に比べ幾分改善した。まだまだ十分ではないが、下半期では個別懇談等を通して保護者との信頼関係を深めることができたこと、長野市こども未来部子育て支援課の「にこにこ園訪問」を活用するなど個々のケースでより良い保育に向け取り組むことができたことがプラス要因になったと考える。子どもの成長を第一としながら、今後も保護者の就労状況等を含めた個々の状況に配慮し、適切に対応できるよう努めたい。

※上段：上半期、下段：下半期(通年)

第5章 職員の資質向上

	A	B	C	D
28. 自己評価に基づく課題を把握し、保育所内外の研修等を通じて、自身の職務内容に応じた専門性を高めるため、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上に努めている。		1	2	1
		1	3	
29. 職員が日々の保育実践を通じて、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上を図るとともに、保育の課題等への共通理解や協調性を高め、保育所全体としての保育の質の向上を図っていくために、職場内での研修の充実が図られている。		2	2	
		2	2	
30. 必要に応じた外部研修への参加機会が確保され、参加している。			2	2
		1	2	1

(評 価)

他の評価項目に比べ評価の低いが、上半期に比べて幾分改善している。上半期は内部研修会が計画通り実施できなかったが、下半期を中心に年間で計画していた内部研修会はすべて実施することができた。また、外部研修会への参加については、開設初年度及びコロナ禍ということもあり十分ではなかったが、オンラインによる研修会に参加する機会を持てた。次年度においては、特に外部研修会において計画的に参加調整を行い、コロナの動向にもよるが積極的に参加できるようにし、職員の資質向上、更には保育実践、質の向上につながるよう努めたい。

□備 考

今回は開設初年度、初めての自己評価となったが、保護者アンケートを実施することができず、保護者の視点を入れて自己評価を行うことができなかった。次年度は保護者アンケートを実施し、当園の取り組みに対する保護者の評価も踏まえながら自己評価できるようにしたい。